

淨瑠璃覺書 (二)

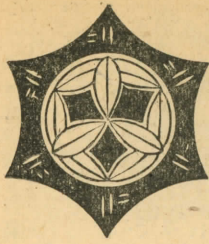
祐田善雄

(二) 竹本座の紋

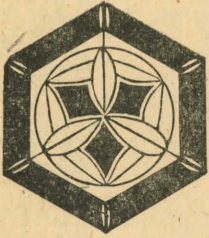
竹本座の紋は、うつかりすると氣付かすに過すが、中頃からその意匠が替つたのである。「今昔操年代記」にも見えてゐる如く、「鞠挾の内に(九枚)笹の丸の紋所」といふのが、塵揚げした當時からの紋であつた。(今昔操年代記挿圖参照)

それが中頃から「竹龜甲」(第一圖)即ち竹龜甲(又は龜甲)の中に九枚笹の丸の紋といふ、現在誰もが竹本座の紋と信じてゐる形に替つた。(前號所掲の竹本竹田打込芝居

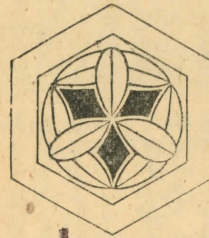
第一圖



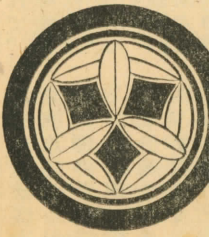
第二圖



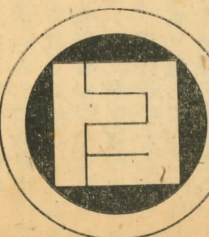
第三圖



第四圖



第五圖



の竹本座の紋、参照) 中央部はもとのまゝで、外廓のみが鞠挾から竹龜甲(又は龜甲)に替つたのである。中頃といふのは、大體、享保十八年六月の竹本座類焼の頃と推定してゐる。

「聲曲類纂 補遺」に、竹田出雲が竹本座の座本になつた時、竹田の紋に替へたものが今に傳はつたのだと言つてゐるが、肯げない。

(三) 豊竹座の紋

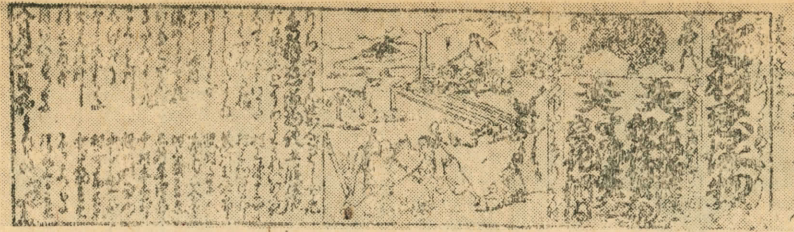
豊竹座も亦替つた。前號の「坂上田村麿」と「田村麿鈴鹿合戦」の芝居の表圖を比較すれば、同じ豊竹座が全く別の意匠の紋に替つた事に氣付くであらう。前者は、「今昔操年代記」にいふ「笹の丸」(第四圖)で、丸の中に九枚笹の丸を書

いてゐるが、後者は竹の丸(又は丸のみ)に片假名のトヨの抱合せで、現在豊竹座の紋と稱してゐるものである。(第五圖) 豊竹座も大體竹本座と同じ頃に替つたと考へてよい。「笹の丸」といへば、竹田の紋(前號所掲の竹本竹田打込芝居の竹田芝居紋、参照)や宇治加賀掾もさうだし、伊藤出羽掾のも似通つた紋である。

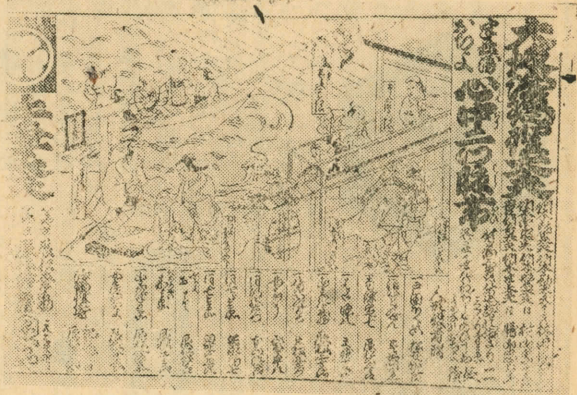
(四) 津賀太夫事竹本山城掾

津賀太夫が受領して山城掾と改めたのは、嘉永七年(安政元年)十月だと一般に言はれてゐる。私もさう信じてゐたし、さう發表もした。

本誌の八・九月號の高谷伸氏の説を讀んで、長尾太夫の自叙傳「陸佳詩野志雄



里「淨瑠璃雜誌による」を再讀したら、嘉永七丑年と書いてあるが、これは前年の嘉永六丑年が正しい事に氣付いた。六と書くべきを七と誤つた、ほんの筆先の



あつてもよささうだが、さう古いものを見た事がない。文政十三庚寅年に「國姓爺合戦」初演の番附を複製して頒布したが、既に正徳五年の番附がその頃に珍らしいものになつてゐたに違ひない。迂闊なこととにその複製の番附もまだ見た事がない。
横長い京番附と、趣の異つた江戸番附を示して、正徳享保頃の姿を窺はう。

一寸した違ひが、そのまゝ踏襲されて、津賀太夫が山城掾と改めたのは嘉永七年と言はれて來たのである。
「近世邦楽年表」の番附には、嘉永六年九月（九月開演の豫定が十月に延期）に津賀太夫改竹本山城掾と載つてゐる。

(五) 淨瑠璃の古番附

鳥羽戀塚物語 宇治加賀掾の歿後、京都では富松薩摩を中心として加賀掾の門弟連が榮えたが、それらを擁して、四條通南側の芝居で、興行した際の番附である。この出し物は、加賀掾が生前に語つてゐたものである。道外役のそるまや間狂言の手妻が、連名に見えてゐるのは面白い。名代座本の虎屋喜太夫を始め、太夫の顔觸れを見ると、正徳享保頃の上演である。天理圖書館には、この他に伊藤出羽掾の手妻からくりや、竹田からくり三枚番附、歌舞伎の阪田藤十郎等の京番附がある。

心中二つ腹帯 この江戸番附は京都や大阪のとは體裁が異つてゐる。おやま人の名手辰松八郎兵衛は、江戸に下つて竹之丞(市村座)の向側に辰松座を興し、義太夫節を江戸の地に擴めた。大阪で、紀海音の「心中二つ腹帯」が豊竹座の手摺にかゝつて人氣を呼んでゐたので、享保七年六月竹本喜世太夫等と共にこの曲を辰松座で上演した時の番附が、これである。もとの淨瑠璃にござんす節を欲込んだりして評判がよかつたのか、同じ題材の「二つ腹帯花毛氈」は、歌舞伎にも、淨瑠璃にも上演された。岩瀬文庫藏
(寫真上京番附「鳥羽戀塚物語」、下江戸番附「心中二つ腹帯」)